

# 都立公園等指定管理者評価委員会（第6回） 次 第

令和3年8月10日（火曜日）

14時00分から16時50分まで

都庁第二本庁舎5階 5B会議室

（Web会議併用）

## 1 開会

## 2 議事

(1) 説明（事務局）

(2) 事業者の財務状況について

(3) 各施設の評価検討及び決定

- ① 都市部の公園・東部グループ【アメニス東部地区グループ】
- ② 都市部の公園・南部グループ【東京南部パークスグループ】
- ③ 都市部の公園・北部グループ【公益財団法人東京都公園協会】
- ④ 武蔵野の公園グループ【西武・武蔵野パートナーズ】
- ⑤ 多摩部の公園グループ【西武・多摩部の公園パートナーズ】
- ⑥ 狭山丘陵グループ【西武・狭山丘陵パートナーズ】
- ⑦ 多摩丘陵グループ【公益財団法人東京都公園協会】
- ⑧ 大神山公園【公益財団法人東京都公園協会】
- ⑨ 青山葬儀所【日比谷花壇グループ】

休憩（10分）

- ⑩ 防災公園グループ【公益財団法人東京都公園協会】
- ⑪ 文化財庭園グループ【公益財団法人東京都公園協会】
- ⑫ 神代植物公園【公益財団法人東京都公園協会】
- ⑬ 夢の島公園・夢の島熱帯植物館【アメニス夢の島グループ】
- ⑭ 潮風公園・台場公園【東京臨海副都心グループ】
- ⑮ 横網町公園【公益財団法人東京都慰霊協会】
- ⑯ 東京臨海広域防災公園【西武造園(株)・(株)NHKアート共同体】
- ⑰ 都立動物園【公益財団法人東京動物園協会】
- ⑱ 東京都霊園【公益財団法人東京都公園協会】
- ⑲ 瑞江葬儀所【公益財団法人東京都公園協会】

## 3 まとめ

## 4 事務局連絡事項、閉会

令和2年度 指定管理者管理運営状況評価 一覧表 (二次評価(案))

Main evaluation table for the left side, containing groups like '都都市部の公園・東部グループ' and '都都市部の公園・南部グループ'.

Main evaluation table for the right side, containing groups like '防災公園グループ' and '文化財庭園グループ'.

Summary table showing evaluation counts by year (年度) and score range (評価).

※h30年度以前の評価は、A+をAに、AをBに、BをCに表記を改めています。

グループ名	都市部の公園・東部グループ
指定管理者名	アメニス東部地区グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
1	猿江恩賜公園	B	<p>・グループ内の多くの公園でコロナ禍にあっても利用者が増加しており、近隣住民の身近な自然を求める様子がうかがえるとともに管理者の公園ポテンシャルを上げる努力が相まったものと評価できる。また、チャドクガ対策に薬剤散布は行わず、卵や幼虫を取り除くなど、工夫して実施することにより、毒害による被害を最小限に抑えるよう努めた。特に亀戸中央公園は園内に4000本あるサザンカを保護するため、チャドクガに重点を絞った巡回等、より重点的に対処したことから被害発生を抑えることができた。さらに、グループ全体で花による魅力や特色づくりに取り組んでおり、東綾瀬公園のハープボランティアでは参加の輪が広がり、大島小松川公園では大修景花壇の四季の花の風景づくりを行うなど、公園ごとに様々な取組を進めているところが評価できる。そのほか、コロナ禍において重要視される都民の健康の維持増進への観点から、情報発信に努めている姿勢も評価できる。</p>	B
2	亀戸中央公園	B	<p>・猿江恩賜公園では、例年実施している近隣小学校による公園での活動についてコロナ禍のため児童の参加を一部制限して継続するほか、学校との協議により、6年生の思い出作りとしての公園樹木調査とマップづくりや、チューリップ球根の植付け、小麦の種まき体験など新たな取組に繋がった。</p>	B
3	尾久の原公園	B	<p>・亀戸中央公園では、サザンカの名所復元に向けて無償提供された挿し穂苗の育成を継続しており、今後の植付けが期待される。</p>	
4	東綾瀬公園	B	<p>・尾久の原公園では、ボランティア団体と協働して希少な動植物保護の継続した活動に取り組んでおり、都心ではなかなか見られない希少種（ハンゲショウやチョウトンボなど）を確認するなど、一定の成果に繋がっている。また、子どもたちに対する身近な自然観察機会の提供なども、単に自然教育ということだけでなくコロナ禍での子どもたちの居場所の提供という観点からも評価できる。今後、さらなる取組を期待したい。</p>	B
5	中川公園	B	<p>・東綾瀬公園では、住宅地に隣接する公園という特性から、近隣住民からの要望も踏まえて台風前の計画的な剪定作業などを実施し、適切な管理を実施した。また、障害者教育施設や教育機関と継続して連携し、学校カリキュラムに合わせた職場体験プログラムの提供や福祉施設のカリキュラムの受入を行った。さらに、園内花壇、プランターの整備・充実により、コロナ禍に来園した方から好評だった上、花壇ボランティアの参加意識の強化にも繋がった。</p>	B
6	大島小松川公園	B	<p>・大島小松川公園では、地中に含まれる六価クロムが大雨時に流出することを防止するため、都と協議を行って擁壁設置工事を適切に実施した。</p>	B
7	宇喜田公園	B	<p>・大島小松川公園では、不安定な脚立から職員が転落、怪我をするという事故が発生した。その後原因究明をしっかりと行っているが、再発防止を徹底されたい。</p>	B

グループ名	都市部の公園・南部グループ
指定管理者名	東京南部パークスグループ

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
8	日比谷公園	S	<p>・日比谷公園では、デモ対応において、警察と連携し毅然とした態度で指導を行い適正化を図った。感染症対策についても、イベント主催者に粘り強く対策を指導し園内の安全を確保したほか、テニスコート更衣室等に光触媒技術を活用した抗菌コーティングを施し、安心な空間を提供した。また、「Shibafu de café」は、コロナ禍でオープンスペースの価値が再認識されるなか、昨年度は5日間だった会期を10日間に延長して開催し、感染症対策を徹底した上で、普段は入れない第二花壇の芝生地を開放し、安全・安心かつ快適に過ごせる場所として提供した。多くの人を動員するイベントができなかった代わりに、日常的な利用を豊かにするような取組を行うことができた。対面式の「歴史探訪ガイド」は中止とし、代替として職員によるガイド動画を6回シリーズで配信し、自宅でも自分のペースで公園の歴史に触れられるコンテンツを利用者に提供した。さらに、全28種13,700株以上のユリで「ユリロード」を設置して新たな魅力を創出し、来園者にやすらぎを提供した。来園できない方々に向けても、ユリロードをはじめ、公園の魅力である園内の花々の情報等について、Twitterを活用し3言語で効果的に発信した。公園の歴史的、文化的価値についても、文化芸術施設等を紹介するテレビ番組と調整を図り、全国12局で放送されるなど広くPRした。そのほか、「オンラインオクトーバーコンサート」や「日比谷アカリテラス」については、コロナ禍の状況を踏まえて企画内容を変更するなど柔軟に対応し、イベント開催を望む利用者の声に応えた。園地改修に伴う工事調整や建築物是正に関する調査協力、日比谷公園再生整備計画検討協議会や東京セントラルパーク連絡会の開催協力等、都の事業についても、円滑に進行するよう適切に対応した。</p>	S
9	芝公園	A	<p>・芝公園では、ぬかるみやすい野球場の排水作業の迅速化や不陸解消、凍結防止等の作業を継続的に行い、稼働率を改善させた。また、もみじ谷設計者である「長岡安平」をテーマに、動画配信、長岡関わった全国の公園を紹介する屋外展示、ハッシュタグキャンペーン、ライトアップ等の情報発信を次々に実施し「もみじ谷修復再オープン」を盛り上げた。また、芝丸山古墳についても、都や港区と連携し、有識者を招へいして約120年ぶりの遺構確認調査や文献調査を実施。古墳の本質的価値を明確化し、維持管理・活用計画を策定するとともに、貴重な調査現場を撮影した動画をYouTubeで配信するなど、公園の歴史資産の保全活用に資した。本公園は、都立公園だけでなく区立公園等周辺施設を含めた一体的な公園として機能しており、これらの施設の管理者等と相互に連携したさらなる取組を期待する。</p>	A
10	青山公園	B	<p>・青山公園では、青山公園50周年記念事業について、コロナ禍のためイベントは中止したが、「AOYAMA PARK通信号外」の作成やTwitterでの情報発信、職員が作成したブックカバーの無料ダウンロードを行うなど情報発信に努めた。</p>	B
11	林試の森公園	A	<p>・林試の森公園では、コロナ禍で利用者が約300万人（前年度比270%）と爆発的に増えたため、巡回強化や園内放送、横断幕等による注意喚起、立入禁止エリアへの侵入防止柵設置、臨時駐輪スペースの増設等、様々な対策を行い園内秩序の維持に努め、苦情要望にも迅速に対応し、安全安心な空間を提供した。また、ボランティア活動に伴う団体加入や会合出席等の心理的ハードルを払拭し、「できる日だけちょっと」「ひとりでも」社会貢献に参加できる「プチボラ制度」を始動して、手軽にボランティア活動をしたいという利用者のニーズに応えた。さらに、高齢化に伴い活動が困難になっていた花壇ボランティアに対して、管理の手間を軽減しながら見栄えのする花壇を提案し、活動の継続を図った。</p>	A
12	蘆花恒春園	B	<p>・蘆花恒春園では、コロナ禍で来園者が増えたこともあり、花火ルールについて都と調整し事前届出制の周知を強化したほか、マナーアップや夜間巡回に取り組み、利用者ニーズに応えながら近隣住民の不安も解消した。</p>	B
13	祖師谷公園	B	<p>・日比谷公園大音楽堂では、開催予定のコンサートに対して中止要望があったものの、都と連携して主催者に適切な指導を行い、周辺での滞留やクラスター等を発生させることなく適正な利用を実現した。また、「日比谷音楽祭2020」は中止となったが、ラジオの特別番組として「日比谷音楽祭 ON RADIO」を3時間にわたり生放送で実現したほか、YouTubeやアプリの活用により、コロナ禍でも多くの方に楽しんでいただくことができた。さらに、音楽祭の中止により仕事を失ったスタッフを支援するためクラウドファンディングも実施するなど、できる限りの取組を行った。加えて、コロナ禍での催事中止や自粛、人数制限等につき、都と連携するとともに、利用者に対しての使用料の還付手続き等の対応も適宜適切に協力した。</p>	B
14	日比谷公園大音楽堂	A	<p>・日比谷公園では、剪定中に脚立から落下するなど職員の作業事故が2件発生した。両事故とも原因究明、再発防止措置を速やかに実施するとともに、南部グループ内での事故情報の共有及び再発防止策の徹底等安全講習を実施。再発防止策については、KYミーティングに反映するように対応の徹底を図ったが、再発防止を徹底されたい。</p>	A

グループ名	都市部の公園・北部グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
15	戸山公園	B	<p>・グループ全体として、コロナ禍において、これまで実施してきたイベント等についてオンラインを活用するなど工夫して実施していることは評価できる。コロナ禍では公園等で体を動かすことによる健康の維持増進が重要と考えられるため、必要な対策を講じつつ、公園現地での活動により重点を置いたさらなる取組を期待する。</p> <p>・善福寺公園では、ボランティア団体と協働で植物の生育状況等の確認や外来種駆除等を行うとともに、植物の特徴紹介と立入禁止のサインを合わせた「サジェストPOP」を設置し、希少植物の保全と普及啓発を行った。また、感染症対策を徹底した上で、地域と連携してミニギャラリー作品展を開催し、地域コミュニティの活性化に寄与した。さらに、コロナ禍における健康推進のためウォーキングコースの見直しを図り、カワセミやスイレン等散策の楽しみを盛り込み、多様な利用者のニーズに対応した。</p>	B
16	善福寺公園	B	<p>・高井戸公園では、都立公園としての管理開始にあたって、従前、区の開放部分で行われていた利用形態（ラグビー、少年野球、サッカースクール等）の規制など新たな利用ルールを設定し、区とのタイアップによる掲示版やSNS等を活用した広範囲への事前周知、開園後のマナーアップキャンペーン（花の種を添えた利用ルールガイドの配布）を行い、公園の利用ルールの浸透に成功した。また、開園準備として、枯枝や掛り枝の除去、芝生上のガラス片等の除去、草刈・清掃、感染症対策等を前倒しで積極的に実施し、安全性・快適性を高めた。さらに、開園後の安全管理への懸念に対して、警察と連携した夜間巡回等により犯罪や迷惑行為を防止し、近隣住民への丁寧な説明により理解を得た。</p>	
17	高井戸公園	A	<p>・浮間公園では、公園に隣接する都道上において、20年以上にわたり桜花期に出店していた不法屋台約10台を、警察、区、建設事務所と協力して適正化した。また、利用者のニーズに応え、洋式化した全ての便器に幼児用便座を設置し利便性を向上させたほか、運動施設の全てのシャワーヘッドを節水型に切り替えた。さらに、外来種回収ボックスを設置して釣り人などに呼びかけ、池にリリースしていたブルーギル等210kg以上を駆除するとともに、回収した外来種は堆肥化して花壇にすき込むなど、生物多様性保全や生態系の循環に取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症対策としてテニスコートでのクラスター発生を想定したBCP訓練を行った。その直後に陽性反応者の利用歴が発覚した際には訓練の成果を発揮し、課題や効果を他公園にも波及させるなど、感染拡大防止に寄与した。そのほか、風車広場に親子のくつろぎの空間を創出する「うきまガーデンカフェプロジェクト」を立ち上げた。民間企業やNPO等と「チームUkiUki」準備委員会を組織し、クラウドファンディングを実施（支援金約58万円）。支援金で購入したチューリップの球根1万球の植付けワークショップでは、新規ボランティアや近隣保育園等約380名の協力を得た。また、くつろぎツールの設置検討として「プレガーデン」を開催し、実際にくつろぎツールを体験してもらい、参加者からたくさん声を集めることができた。各種事業が相乗的に効果を上げ、地域に浸透し始めていることを高く評価するとともに、職員の士気にもプラスになっており、今後に期待する。</p>	A
18	浮間公園	S	<p>・赤塚公園では、“公園からアートを発信する”をテーマに毎年実施している「東京五感公園」は3密防止のため、ウェブでのアート作品募集や、作品の展示・撮影・撤去を繰り返して作成した動画等の配信という方式を採用した。また、ボランティア団体存続のため、次世代リーダー候補を育成する「ボランティア担い手作り講座」を実施し、最終的に2名が修了した。</p>	S
19	赤塚公園	B	<p>・石神井公園では、Twitterをほぼ毎日更新し、園内の自然情報をタイムリーに発信した。カラスアゲハ等の成長を観察できる生態展示も配信し、フォロワーは前年比210%となるなど、外出自粛の状況下でも公園の自然や魅力を広域的にPRした。</p> <p>・大泉中央公園では、近隣3公園合同イベント「キッズチャレンジ」「サンドアートフェスティバル」「焼き芋大会」を開催した。3公園連絡協議会を主導し、共催者の区立・県立公園でも都立公園レベルの感染症対策を実践してもらい足並みを揃えたほか、完全予約制を導入するなどして安全・安心な運営を行い、新しい日常における公園の楽しみ方を多くの利用者に積極的に提供した。</p>	B
20	石神井公園	B	<p>・戸山公園では、箱根山地区において排水施設の一部に適正な管理がなされていなかったため、排水不良による苦情を招くとともに都の調査にも支障を来した。また、外周部に位置し道路側に傾斜していたサクラが長雨等の影響で倒木し、通行人が怪我をする事故があった。さらに、臨時的営業に伴う占用者指導について不適切な点があった。いずれもグループ内での情報共有、緊急点検、類似条件の樹木剪定など再発防止策を実施したが、適正な管理に努めるとともに、再発防止を徹底されたい。</p>	B
21	大泉中央公園	B	<p>・赤塚公園では、文書の取扱いに不適切な点があった。グループ内での情報共有及び研修等で文書の取扱いに関する注意喚起を行ったが、再発防止を徹底されたい。</p> <p>・石神井公園では、落枝により、区指定名所旧跡である姫塚ほこらが破損した。枯枝及び健全木の緊急点検を行ったが、再発防止を徹底されたい。</p>	B

グループ名	武蔵野の公園グループ
指定管理者名	西武・武蔵野パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
22	武蔵野公園	B	<p>・グループ全体として、国分寺崖線沿いの公園が「はけと自然のくらしのフォーラム」開催に向けて努力したことは、地域全体の環境保全に積極的に公園が寄与したという意味で、大変評価できる。</p> <p>・武蔵野公園では、コロナ過における安心して公園を利用できる取組のもと、対前年6割増の入園者を数え、前年度の利用者満足度をほぼすべての項目で上回った。また、グラウンドコンディションの改善により利用者の安全面が向上するとともに、ヤギによる植生管理により斜面地の安全かつ効率的な植生管理に繋がった。さらに、園内にあるサクラは既に入手不可能な品種も多くあるなか、ひこばえを移植・養生し、後継樹育成に取り組み、希少品種を途絶えさせないよう努めた。</p>	
23	浅間山公園	B	<p>・浅間山公園では、地元自然保護団体と協働で策定した保全管理ガイドラインに沿って保全活動を継続しているが、3年に1度の浅間山を象徴する植物12種についての全山の植物調査により、12種全ての分布域拡大を確認できた。</p>	B
24	野川公園	S	<p>・野川公園では、多摩地域の公園でナラ枯れ被害が一番多く発生したが、東京農工大と連携して早期の被害樹木の調査を実施し、優先順位を決めた上で伐採及び剪定等の対応をいち早く進めるなど、被害拡大防止を図った。また、木道（自然観察園）の床板が老朽化に伴い劣化しており、都による改修工事が必要な箇所もあるものの、計画的に補修し、コロナ禍で歩行者が増える中で安全確保に尽力した。さらに、社会科見学や学校授業などの受入れに際し、動画での授業や屋外で分散しての活動実施などの配慮をして対応した。</p> <p>・狭山・境緑道では、鉄道が並走するエリア、駅前、緑道と交差する道路付近の大径木の剪定を行い、台風時の倒木や落枝の危険防止を図った。</p>	S
25	狭山・境緑道	B	<p>・玉川上水緑道では、関係団体と共通認識を持って管理を進めていくための基本方針となる「玉川上水保全活用ガイドライン」を、市民団体などと協議して作成に着手、まずは杉並区エリア版を作成した。</p>	B
26	玉川上水緑道	B	<p>・武蔵国分寺公園では、「武蔵の池」再生プロジェクト第3弾として、地域企業や学校と連携して水質調査や生物保護を行い、一部に多自然型護岸を導入するなど、水質改善や生物多様性向上に取り組んだ。また、非接触型企画「ディスカバリーワードラリー」を国分寺市ふるさと文化財課との共催で初開催し、公園内外の6拠点を巡ってもらいながら地域の自然や歴史文化の魅力に触れる機会を創出するなど、公園を核としたマイクロツーリズムの取り組みはコロナ禍にも配慮した素晴らしい取り組みとして評価できる。さらに、公園の日常的な利用を促すための「あったらいいな」の実現の試みは、これからの公園利用の可能性を広げる意味の大きな試みであると評価できる。そのほか、本地域は「ガーデンツーリズム登録制度」への登録も行われ広域連携が拡大しており、より広域的かつ公園間の連携強化を志向した取り組みへと発展することを期待したい。</p>	B
27	武蔵国分寺公園	A	<p>・六仙公園では、市、消防署、地域団体による実行委員会形式で防災イベント「防災キャラバンin六仙公園」を実施していたが、この実行委員会をオンライン会議で継続、地元FM局の地域防災を考える月1回の防災番組に発展させた。</p> <p>・武蔵野公園では、園路のクラックが原因の自転車転倒事故があった。今後同様の事象を発見した際は速やかな対応を図るなど、再発防止を徹底されたい。</p>	A
28	東伏見公園	B		B
29	六仙公園	B		B

グループ名	多摩部の公園グループ
指定管理者名	西武・多摩部の公園パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
30	陵南公園	A	<p>・グループ全体として、コロナ禍の中でも、それぞれの公園で多彩な楽しいプログラムを開発し、動員型ではなく、各自がゆったりと公園を楽しむイベントのノウハウが積み上げられたと実感できる。一方で、各公園におけるイベント等が、やや単発的なイベントにとどまっている感もあるため、公園間で連携した取組の検討も期待したい。</p> <p>・陵南公園では、ヤマアカガエルの卵塊を例年より長く保護し、約1万匹を自然に戻すとともに、公園隣接地で希少種のショウリョウバッタモドキの良好な生息地を初確認、希少種の増加に貢献している。また、ガーデンサポーターには感染症拡大防止策を徹底してもらうことで、「たねダンゴづくり」や除草、球根の植え付け等の活動を実施し、花壇づくりを推進した。そのほか、コロナ禍での地域の健康づくりの拠点イベントなどコロナ禍に対応した様々なイベントを実施している点は評価できる。</p>	A
31	小宮公園	A	<p>・小宮公園では、ワダソウ保全区内で前年度大径木を伐採した後に丁寧な下草刈を実施したことで、前年度数株だったワダソウが200株近く開花した。また、コロナ禍という制約の中で、非接触型プログラムの開発や冬カフェの実施等により利用者のニーズに応え、利用者増に貢献した。今後もこのような取組を進め、マイクロリズムの拠点となることを期待する。</p>	
32	滝山公園	B	<p>・滝山公園では、2021年滝山城築城500年に向け、八王子市、滝山文化協会、住民協議会等で構成する「滝山観光地域おこし実行委員会」に参画し、セルフガイド方式による「滝山城ワードラリー」の展開や、滝山城の解説動画配信など、機運醸成に貢献した。</p> <p>・大戸緑地では、「はす池」で繁茂したガマの抜き取りを学生ボランティアと協働で実施し、トンボ類などが産卵しやすい環境に整備した結果、3種のトンボを初確認した。また、自然解説案内板を6箇所設置したり、公園から高尾山までのハイキングコースを入れた「周遊マップ」を作成するなど、公園だけでなく周辺も含めたエリアの魅力を伝え、利用促進を図った。</p>	B
33	大戸緑地	A		A

グループ名	狭山丘陵グループ
指定管理者名	西武・狭山丘陵パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
34	狭山公園	A	<p>・グループ全体として、トイレの洋式化に取り組み、全公園で達成したことは利用者の利便性、快適性の向上に繋がるものであり高く評価したい。また、コロナ禍においても、それぞれの公園で多彩な楽しいプログラムを開発し、動員型ではなく、各自がゆったりと公園を楽しむイベントのノウハウが積み上げられたと実感できる。</p> <p>・狭山公園では、コロナ禍において、急増した車での来園への対応として、警備員の増強により待機車の誘導等を行い、駐車場の混雑解消を図ったほか、都と協議を重ね、駐車場を一時閉鎖することにより、周辺道路の渋滞緩和を図った。また、集客型イベントや「ガイドウォーク」の代替として、展示・セルフガイド・動画配信の充実を図り、公園の自然や保全活動などを紹介する動画配信（18本）や、園内の自然を学ぶセルフガイドシート（24種）の作成・配布（9,000枚）を行った。</p>	
35	八国山緑地	B	<p>・八国山緑地では、ふたつ池の湿生植物復活に向け、食害防止のため、外来生物アメリカザリガニの連続捕獲装置を導入し5か月で3,500匹を捕獲・駆除した。また、コロナ禍における制約された条件の中でも、オンライン学習や記念プログラムを実施し利用者の大幅増加につなげた。さらに、園地点検結果について要望者へのポスティングを毎月欠かさず実施し、周辺住民の不安軽減に寄与した。</p>	
36	東大和公園	B	<p>・東大和公園では、アカマツ林の保全のため、地掻き作業により下草の繁茂を抑制し、草刈り頻度を減らしても実生の生育を阻害しない管理手法を究明した。</p>	B
37	野山北・六道山公園	S	<p>・野山北・六道山公園では、緊急事態宣言中の遊具や駐車場の利用中止・閉鎖の期間を活用して、点検・補修・整備を実施することで、宣言解除後、施設利用が支障なく行われるように調整した。また、景観に配慮した低木刈込、実生木伐採、眺望改善伐採実施による明るい通学路の環境を創出するとともに、年々拡大している孟宗竹の伐開1,500㎡を実施したことで、草地化による植物の多様性や近隣住民への減災に寄与し、安心できる空間を提供した。さらに、例年実施している田んぼ体験イベントを中止した代わりに、田んぼに自由に入れるよう開放した「生きものふれあい田んぼ」では、子どもたちが伸び伸びと自然と触れ合う機会を創出した。加えて、顧客管理システムを活用したボランティア情報の一括管理の仕組みを構築し、ボランティアの登録情報、活動参加連絡などの情報管理作業の効率化を図った。そのほか、自転車利用マナーや野鳥観察マナー等の4種マナーアップキャンペーンを実施、多様な主体と連携して開催し、動画作成やポスター掲示によって普及啓発を行った。</p>	S
38	中藤公園	B		B



グループ名	多摩丘陵グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
39	長沼公園	B	<p>・長沼公園では、周辺樹林や隣接民地との境界に点在する竹林の無秩序な拡大に対して、林床のカタクリの保護のため、急激な環境変化を避けた計画的な伐採を実施し、近隣住宅の日照確保にもつながった。また、丘陵地レンジャーが丘陵地ボランティアと協働で、カタクリの発芽・展葉前に、群生地のササ刈りや落葉掻き等を行い、35,000株の貴重な群生地の環境を良好に維持した。</p> <p>・平山城址公園では、公園の表玄関ともいえる北中央口周辺において、景観に配慮した林床整理を行い、見通しの良い空間を作り出した。また、丘陵地ボランティアが萌芽更新を行った雑木林再生地区では、10年にわたりコナラによる明るい雑木林の景観・環境の維持、希少植物の生育環境の保全に取り組んでおり、計画的な維持管理作業により、ナラ枯れ被害を受けない健全な雑木林の景観を保つことができた。こうした事例を参考とした樹林地の管理を他公園でも進めることを期待する。</p>	B
40	平山城址公園	B	<p>・小山田緑地では、公園利用者が増加して排水詰まりが発生したバイオトイレについて、不具合の早期発見や補修等即時対応し、故障による使用休止期間を最小限にとどめ、公園利用者に安全で快適な環境を提供した。また、トンボの産卵習性を踏まえた水生植物の管理や、発生材を活用したエコスタックの設置により外来生物からヤゴを守る取組など、トンボの生態に配慮した保全活動により良好な生息環境を創出し、絶滅危惧種の生育状況や産卵場所の把握に成功した。さらに、TwitterやYouTubeでの情報発信や、セルフガイドシートの作成、いきもの情報ボード、ウェルカムボード、「おやまだ通信」の作成など、タイムリーでバラエティに富んだ情報発信をした。そのほか、感染症対策を徹底した上で、ボランティアと協働で田んぼ活動を完遂するとともに、例年の「収穫祭」の規模を縮小して、普及啓発イベント「収穫を感謝する日」として実施し、コロナ禍で田んぼ活動に参加できなかった子どもたちにも稲作文化に係る貴重な体験の場を提供した。</p>	B
41	小山田緑地	A	<p>・小山内裏公園では、ピオトープ池の計画的管理により、キイトンボの個体数増加、マルタンヤンマの初確認を含む15種（昨年度は9種）のトンボ類の飛来を確認した。絶滅危惧種カワラゲツメイについても管理手法を工夫し、昨年度比2倍（2,510株）に増加するなど大きな成果を上げた。また、タマノホシザクラの健全な生育に向けた環境整備について調査、検討し、研究者の協力を得て、苗圃でのタマノホシザクラとヤブザクラの育苗を開始するなど、希少なサクラの後継樹を継続的に育成できる体制を整えた。さらに、公園利用者が増えたことから、非接触型の植物解説ツールとして、セルフガイドシートを新たに35種作成し、過去に作成したものも含め計38種類5,310枚配布した。近隣の小学校にも提供するなど、ガイドツアーができない中でも公園の魅力や楽しみ方を伝えた。そのほか、「いきいき交流の集い」については、外出自粛が続く中、地域の高齢者や子育て世代が孤立しないよう、ボランティアグループと協働で公園の中に居場所を提供し、育児サロン、だれでも自由に弾けるピアノ、里山移動図書館、ミニリサイクルなど全10回開催した。実施に際しては国、東京都、八王子市の感染症予防方針等に則り対策を徹底し、多様な利用者が自由に心地よく過ごせる安全・安心な場所を提供した。他の公園でも、工夫して楽しい場づくりの取組が行われることを期待する。毎年恒例のどんど焼きについては、地域の伝統行事の継承のため、東京都、ボランティア団体、消防等と協議を重ね、感染症拡大防止の観点から事前広報をせずに早期に無観客でお焚き上げのみ実施し、近隣からの多くの謝辞が届いた。「里山情報連絡会」については、深刻化しているナラ枯れをテーマに、小山内裏公園が事務局となり、多摩地区の公園緑地管理に携わる関係者を集めてオンラインで開催し、組織や立場を越えた広域的な連携体制を推進・拡大した。短期的、中長期的な対策について、費用対効果を見極めたうえで検討し、実行に移すことを期待する。</p>	A
42	小山内裏公園	S	<p>・桜ヶ丘公園では、支障枝処理等により景観の向上・保全を行うとともに、堆肥の充填や土壌改良によるサクラの樹勢回復、後継樹育成に向けた播種等に取り組んだ。また、隣接する都立特別支援学校の全学年127名に、各学年の成長度合いに応じた環境アクティビティを実施し、安全管理を徹底しながら、公園の豊かな自然に親しんでもらうことができた。さらに、ボランティアや近隣小学校等と協働で、感染症対策を徹底した上で田んぼ活動を実施した。加えて、里山保全活動として育てたサツマイモや米を提供するイベントが中止となったため、ボランティアと検討を重ね、米は動物たちの餌として井の頭自然文化園に提供し、サツマイモは児童福祉施設等に提供した。</p>	S
43	桜ヶ丘公園	A	<p>・桜ヶ丘公園では、支障枝処理等により景観の向上・保全を行うとともに、堆肥の充填や土壌改良によるサクラの樹勢回復、後継樹育成に向けた播種等に取り組んだ。また、隣接する都立特別支援学校の全学年127名に、各学年の成長度合いに応じた環境アクティビティを実施し、安全管理を徹底しながら、公園の豊かな自然に親しんでもらうことができた。さらに、ボランティアや近隣小学校等と協働で、感染症対策を徹底した上で田んぼ活動を実施した。加えて、里山保全活動として育てたサツマイモや米を提供するイベントが中止となったため、ボランティアと検討を重ね、米は動物たちの餌として井の頭自然文化園に提供し、サツマイモは児童福祉施設等に提供した。</p>	A

グループ名	大神山公園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
44	大神山公園	B	<p>・年間4回の樹木点検に加え、毎朝の園内巡回、定期点検及び台風・強風時の緊急点検、重点点検エリアの設定など、こまめな点検を着実に実施して危険木等を早期発見・除去することで重大事故を防止し、安全安心な公園環境を維持している。また、職員全員が上級救命技能認定講習を受講するなど、いつでも緊急時対応ができる体制を整えた。さらに、テレビ局と連携し、大神山公園のメイン展望台に設置しているライブカメラからの映像を昼のニュース番組の背景や天気予報等に活用してもらい、小笠原・大神山公園の「今」を広く伝え、島外の潜在的な観光客にも発信できた。そのほか、地元高等学校との連携による外来種の除去・固有種の植栽活動や、小学校の総合学習における公園の固有種植栽計画作成を行い、小笠原の自然について考える機会を提供した。</p>	B

グループ名	青山葬儀所
指定管理者名	日比谷花壇グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
45	青山葬儀所	B	・エアコン設備の室外機の冷却のため、これまでは人力で放水していたが、ミストホースを常設したことで負担軽減を図った。また、臨場感を体験できる葬儀社用のツールであるパノラマ画像を一般ユーザーにも開放し、よりリアルに式場の様子を見られるようにしたことで、コロナ禍で会場の下見が困難な場合や遠方にいる方なども含めた利用者のサービス向上を図った。	B

グループ名	防災公園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
46	東白鬚公園	B	<p>・グループ全体として、コロナ禍に配慮した防災活動や防災訓練等を実施しており、その点は評価できる。こうした訓練を通じて、コロナ禍の状況下において、どのような課題が発見されたのかを明らかにし、次年度以降の訓練に反映させることを期待する。</p> <p>・木場公園では、地域の団体等と意見交換を重ね、「子ども」を主なテーマとして、地域の遊び場を紹介する「子どもの遊び場マップ」と、公園で泥遊びや花摘みなどができる「子どもの庭」に地域とともに取り組んだ。また、地域の新たなパートナーを掘り起こしてアートイベント「空間絵本きばきば」を開催した。このような積極的な地域連携の取組は大切であり、継続を期待する。</p>	B
47	木場公園	B	<p>・駒沢オリンピック公園では、コロナ禍で公園利用者が急増し、特にランナーの利用が増えて様々な意見をいただいたことから、マスク着用等を声掛けするキャンペーンを季節ごとに実施し、感染症拡大防止策を積極的に実施した。</p>	B
48	砧公園	B	<p>・代々木公園では、新型コロナウイルス感染症対策として、桜花期に、毎日の園内巡回、声掛けやチラシ配布、掲示物の設置等により利用ルールの周知を徹底したほか、A地区の各門に警備員を配置して注意喚起するとともに、園内の保育園の利用者に対する安全性や利便性確保のため、原宿門の扉の一部を改修するなど、利用者目線の配慮も欠かすことなく実施した。大規模集会等の許可受者に対しても、感染症対策の徹底など適切な指導を行い、園地の適正利用と安全確保に努めた。また、集客を目的としない方法で「秋のバラフェスタ」を開催し、バラの写真を撮り、色を組み合わせたアプリ「バラパレットを作ろう」の配信や、動画配信「バラ巡りツアー」、Twitterでのバラの人気投票など、公園に来られない方にもバラの魅力を伝えた。</p>	B
49	駒沢オリンピック公園	B	<p>・善福寺川緑地では、コロナ禍での利用過多でなかよし広場の裸地化が急激に進み、砂埃が発生したが、表土の耕耘や水まき、クローバーやオシヒバ等の種まきにより、速やかな復旧整備を行った。また、地域の水害への関心の高まりを受け、地域との意見交換の場で水害への備えについて話し合い、地域の4町会等と土のうの作り方や積み方等を取り入れた防災訓練を実施した。訓練の様子は動画でDVDにまとめ、参加できなかった小学校等に配布するなど、地域の課題に寄り添った取組を実施した。さらに、例年行っているセミの羽化観察会は中止としたが、新たにセミの羽化をまとめた動画やセルフ観察ガイドとシートを提供して発信を行った。</p>	B
50	代々木公園	A	<p>・和田堀公園では、コロナ禍で野球やサッカーなどの利用者の急増に伴い騒音問題が生じたが、近隣住民と利用者、双方との対話を持ち、小学生以下の利用に限り可能とした。安易に禁止事項を増やすことなく、適正な公園管理に導いた。</p>	A
51	善福寺川緑地	A	<p>・汐入公園では、密になりやすい大型複合施設、多目的広場の閉鎖措置を迅速に行い、使用中止への問い合わせにも丁寧に対応した。また、「汐入公園ハーブガーデンプラン」を策定し、近隣の保育園等の希望を取り入れて「ハーブガーデンキッズエリア」を新設するなど公園の魅力の充実を図った。さらに、イベントは中止としたが、ボランティアの協力により、ハーブキットの配布やSNSでの配信など自宅でもハーブを楽しめるよう工夫したほか、公園のトイレにサシェを飾るなど他の公園にはない環境を提供した。加えて、「汐入公園ケンないきもの」のポスターを作成し、小学校等へ掲示するなど安全への普及啓発を実施した。</p>	A
52	和田堀公園	B	<p>・城北中央公園では、ボランティアと協働で池の清掃や生物多様性を普及啓発する掲示板の作成を行い、良好な環境維持を図った。また、子どもたちが園内の防災施設について学べる「防災体験ツアー」を実施するとともに、ツアーの様子を動画でDVDにまとめ、近隣の保育園や小学校、町会等に配布するなど、コロナ禍でも防災について普及啓発を継続した。さらに、コロナ禍で学びの場が少なく困っている、という地域との意見交換の場での声を受けて、子どもたちのための青空学習を実施し、公園の自然を活用して楽しく遊べる場を提供した。</p>	B
53	汐入公園	A	<p>・光が丘公園では、スケートボードマナー対策として、利用ルールを設けて滑走可能エリアを設定し、積極的に声掛けを行った結果、苦情数が8～9割減少するなど成果をあげた。また、来年度40周年を迎えるにあたり、公園の顔となるマスコットキャラクターを職員が企画、制作した。グッズを作成し、イベントやマナー啓発で配布したほか、キャラクターの紹介動画をSNSで積極的にPRし地元テレビ局の番組で取り上げられるなど、公園の新たな魅力を広く発信した。さらに、遊具閉鎖対応の際、利用者の目線に立った看板を制作した結果、遊具休止に伴う苦情はなく、利用者の理解を得ることができた。親しみやすいデザインで作成したことから、マスメディアでも取り上げられ広く周知することができ、他の指定管理者、つくば市の公園にも提供した。</p>	A
54	城北中央公園	A		A
55	光が丘公園	A		A
56	舎人公園	B		B

グループ名	防災公園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
57	水元公園	B	・葛西臨海公園では、長らく止まっていた日本庭園から芦ヶ池の間の水流を復元した。また、障がい者支援団体と連携した実践的な防災訓練を実施し、職員・利用者双方の理解・経験を深めるとともに、都が新設した車いす避難用スロープや津波フラッグの活用を含めた津波対応マニュアルを策定し、より迅速に避難誘導ができる体制を整えた。東京2020大会開催に向けては、会場付近の見通しの確保、警察と連携したテロ対策訓練実施のほか、警察署、園内各施設、江戸川区、鉄道会社等呼びかけ葛西臨海公園連絡協議会を開催し、エリア全体が一体となってリスクマネジメントに取り組む方針を共有し、安全・安心の確保に努めた。また、水仙の国内三大産地の一つである鋸南町に連携を呼びかけ、水仙の球根5,000株を寄贈していただき、水仙畑の魅力を一層向上した。「新しい生活」に対応した新たなイベントについても、鉄道会社や商業施設等との連携によるアプリを活用したウォークラリーの開催、感染症対策を徹底した上での「野鳥観察会」、在宅で楽しめるWebコンサート等の動画配信などを実施し、多くの方に公園の魅力を発信した。そのほか、絶滅危惧種のヒクイナのヒナが確認されたため、指定管理者が主体となり、大学、NPOと三者で生態調査を行う葛西鳥類保全委員会を設立し、計3回の繁殖を確認（23区内で繁殖が確認されているのは葛西臨海公園のみ）。調査結果に基づき、ヒクイナが好む環境づくりとして、鳥類園の水生植物等の管理作業を企業のCSR活動等と連携して実施した。同委員会では公園におけるコアシサシの保護にも取り組み、公園で伐採した竹を使って保護区を拡大し、営巣数を過去最大規模に増やすことに成功した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策についても、中央園路の一方通行化や、ウォッチングセンターの屋根劣化に伴う立入禁止措置等、都からの指示に基づき迅速に対応した。	B
58	篠崎公園	B	・武蔵野中央公園では、防災トイレ改修後の既設バルブの不具合補修を速やかに実施した。また、地域で複数の児童支援施設を運営する団体にはたらきかけ、子どもたちと里山の雑木林エリアの保全を進めた。さらに、里山の雑木林エリアの愛称を関係団体から公募し、利用者投票により愛称を決定して現地に説明看板を新設するなど、地域に親しまれる林づくりを行った。	B
59	葛西臨海公園	S	・府中の森公園では、園内の雨水が流出することが問題となっていた緑町公園口に横断側溝を新設してゲリラ豪雨等の出水や通行障害を解消し、周辺地域と園地の安全性の向上を図った。また、地域の大学生や学芸員等との連携で4種の動画を作成し、園内のデジタルサイネージ、TwitterやYouTubeで配信して多くの方々に視聴していただくなど、公園の魅力をアピールした。	S
60	武蔵野中央公園	B	・武蔵野の森公園では、数年来、隣接する関東村グラウンドの利用者が公園敷地内に数百台駐輪してきたが、府中市と連携して継続的な駐輪禁止措置を取り、混乱なく駐輪を完全になくし、適正化した。また、トイレの日常管理に必要なデータ等を1冊にまとめたトイレ管理台帳を運用し、不具合が起きた際に迅速な状況把握と初動判断が可能になった。日常巡回点検においても、メリハリを付けて広い園内を分割してエリア毎に重点巡回を実施し、見落としを防止して不具合などの早期発見に努め、利用者サービスの一層の向上にもつなげた。さらに、東京2020大会自転車ロードレースのスタート会場であることから、現場の調整等、全面的な協力、支援を行った。	B
61	府中の森公園	B	・東村山中央公園では、法面の麓に直営で約250株の植栽を行い、自転車による危険行為を止めることができた。また、マナーを守らないスケートボーダーが増加して来園者の安全が危ぶまれることから、スケートボードの適正利用の徹底を図り、粘り強く対応して、来園者から感謝の言葉があった。	B
62	武蔵野の森公園	A	・秋留台公園では、来園者の視線を意識し、場所によって低木刈込の高さを設定するなど工夫して、安全性の向上や景観の改善に取り組んだ。また、バーベキュー受付のWeb化を機に事前予約制を導入し、利用者の混乱がないよう、案内看板の刷新、早期からのTwitter等での周知、チラシ配布や口頭説明の徹底などスムーズな導入を図った。さらに、秋のバラフェスタは例年と内容を変更し、SNSでの発信、写真展示、ボランティアが作成したオリジナルポプリの販売、アプリの新規導入のほか、ソーシャルディスタンスの目安として石畳にステンシルプリントを施すなど、密にならずに安心して楽しめるよう工夫するとともに、アンケートにより選ばれた人気のバラを新たに植栽して公園の魅力を創出し、バラ園ファンを増やした。	A
63	小金井公園	B	・木場公園では、草刈り委託業者が園路を横断する形で設置した立入禁止ロープで自転車が転倒する事故が発生した。再発防止を徹底されたい。	B
64	東村山中央公園	B	・舎人公園では、園内巡回・点検で気付くべき施設の破損について、半年以上補修を怠り、都民からの苦情へつながった。また、維持管理について、職員間の情報共有・記録ができておらず、職員の急な欠員に際して、その職員の担当箇所について適切な維持管理が実施されなかった。適正な管理に努めるとともに、再発防止を徹底されたい。	B
65	東大和南公園	B	・水元公園では、ドッグランに関する苦情及びボランティアに関する諸課題について、事情を十分に把握しておらず、トラブルに発展した。また、業者、職員の車両操作ミス等による物損が4件発生した。適正な管理に努めるとともに、再発防止を徹底されたい。	B
66	秋留台公園	A	・篠崎公園では、新型コロナウイルス感染症関連の自動放送機能のスイッチを切り忘れたことにより、夜から朝にかけて繰り返し放送が流れるという事態が発生した。再発防止を徹底されたい。	A
			・府中の森公園では、破損した複合遊具で利用者が怪我をした事例があり、安全性を考慮した維持管理が不十分であった。再発防止を徹底されたい。	A

グループ名	文化財庭園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
67	浜離宮恩賜庭園	A	<p>・グループ全体として、コロナ禍において長い休園期間があったため、利用者が大幅な減となっていることは残念であるが、休園期間を有効に活用し、ウェブやSNSを活用した情報発信、園路等の補修等の園内整備などに取り組んでおり評価できる。コロナ禍でさらに情報発信が必要とされているため、今後も継続して、現場ならではの日々の様子、専門性のある視点での情報提供に取り組むことを期待する。また、コロナ禍で利用料金収入が大幅に減収となり、財源が限られた中でも、自助努力により、必要な維持管理水準を維持した。</p> <p>・浜離宮恩賜庭園では、前年度の台風時に「松の御茶屋」の欄間の千鳥の透かし彫りを通して被害を受けたことを踏まえ、意匠になじむ加工を施した、全て形状の異なる34個の千鳥の亚克力板を作成してはめ込み、景観を損なわずに確実な被害対策を講じた。また、感染症対策を十分に検討し、様々な工夫を行った上で、ライブビューイングによる「お点前拝見」、「パネル展 東西馬術の接点・浜離宮」、「技能伝承見学会（雪吊り）」等、積極的にイベントを開催するとともに庭園文化の魅力を最大限に伝える取組を行った。さらに、休園期間中も園内の様子を楽しんでいただけるよう、複数のTwitter企画（動画配信、アンケート企画、普段見られない景観の配信等）を行ったほか、YouTubeで英語版「庭さんぽ」を配信し、コロナ禍で来園できない海外の方に代わって庭園をPRした。加えて、鴨場に関する文献調査を行い、質の高い「浜離宮恩賜庭園 鴨場ガイドブック」を作成し、新たな魅力発信のツールとなった。</p>	A
68	旧芝離宮恩賜庭園	B	<p>・旧芝離宮恩賜庭園では、休園期間を活用して、平成18年度に景観支障樹木と認定された実生のケヤキ（幹回り275cm）を伐採したことで、庭園景観を改善させたほか、根による園路の飛石の押し上げを防ぐことができ、利用者の安全確保、文化財の保全につなげた。また、護岸の応急補修や芝生地の切り下げ、株木の撤去等により、保存管理計画に求められている池泉鑑賞景観「広がりある大泉水」をより感じられる景観へと近づけた。</p>	B
69	小石川後楽園	A	<p>・小石川後楽園では、都の「唐門復元工事」「東門周辺整備工事」の円滑化に協力し、完成後の都主催のメディア向け事前公開及び内覧会に際して、事前の清掃、記念品の配布、当日の運営等全面的に協力したほか、都主催の内覧会とは別に、庭園主催の近隣施設向け内覧会も開催し、変化する利用者導線を踏まえた新しい観点からの取組のための布石を打った。また、唐門復元及び東門開門に伴い、庭園鑑賞に相応しいサインや案内板を充実させるとともに、PRを主眼として、地図形式のガイドブック「小石川後楽園旅指南」を作成し、園内図等を使ってわかりやすく紹介した。加えて、密を避けて安心して観賞できるよう工夫して「伝統技能見学会（松の雪吊り）」を開催するとともに、製作過程をYouTubeで配信するなど別の角度から発信したことで多くの方に興味を持っていただけた。</p>	A
70	六義園	A	<p>・六義園では、紅葉期に、都立庭園で初めて「事前予約システム」を導入し、一日の入園者数の上限を5,000人とすることで混雑緩和を図った。積極的に周知を行い、団体利用の抑制や分散利用につながった。導入による課題等を整理し、さらなる利用者サービスの向上につなげることを期待する。また、明治年間に六義園へ樹木を移植してきた「旧岩崎家別邸末廣農場」へ名古山のヤマアジサイの剪定枝を譲渡して関係を強化したほか、関連団体との協力による三菱創業150周年記念特別展示「都立庭園になった岩崎家本邸・別邸」のパネル展示、東洋文庫ミュージアムと連携したクイズラリーの実施などにより普及啓発・利用促進を図った。加えて、来園者の落水事故に際して迅速かつ的確な人命救助、救急要請を行った。予期せぬ事故に対する日常訓練の成果を発揮し、東京消防庁消防総監より感謝状を授与された。</p>	A
71	旧岩崎邸庭園	B	<p>・旧岩崎邸庭園では、感染症対策のため活動を休止している庭園ガイドに代わり、職員手作りの「簡易音声ガイド」を導入し、密を避けながら質の高いガイドを提供した。また、非公開の地下道の見学要望が高いことから、地下道を紹介するパネルを作成し、地下道を身近に感じられる場所で展示することで、利用者ニーズに応えた。</p>	B
72	向島百花園	B	<p>・向島百花園では、Twitterを利用して花の開花状況をタイムリーに発信し、再開園後の集客につなげる取組を積極的に行った。また、主要景観である「ハギのトンネル」の更新作業について、これまで詳細な技術資料がなかったことから、図面や作業手順等をまとめた資料を作成するなど、確実な技能の伝承に努めた。</p>	B
73	清澄庭園	B	<p>・清澄庭園では、集会施設の利用ルールの見直し等を行い、適正化を図った。また、中止となった伝統技能見学会の代替として、実物大の雪吊り模型の制作・展示やPR冊子の更新・配布のほか、雪吊りの設置作業を撮影しタイムラプス風に編集した動画をTwitterで発信するなど、コロナ禍でも庭園の伝統技能について普及啓発を行った。</p>	B
74	旧古河庭園	A	<p>・旧古河庭園では、長期間の通行止めをしなければ措置が難しい主要園路の補修について、休園期間を有効に活用して集中的に実施した。また、臨時休園となった春バラの時期も積極的にTwitterやHPを更新し、バラの全種類紹介、見頃のバラ園の様子、技能職員の仕事風景などをわかりやすく動画で説明した。このことが秋バラの時期や紅葉期の集客につながり、コロナ禍においても多数の利用者が訪れた。技能職員の経験、知識、技術により、バラの開花時期を調整して秋バラの見頃は紅葉の時期に合わせることで、園路の狭いバラ園での滞留を防ぎ、日本庭園への回遊性を高めた。そのほか、北区や渋沢資料館と連携して地域観光施設等を回遊する「渋沢アーケイズラリー」等により、庭園の利用促進を図るとともに、地域全体の活性化にも貢献した。</p>	A
75	殿ヶ谷戸庭園	A	<p>・殿ヶ谷戸庭園では、保存管理計画に基づき、往時の馬車道を復元する重点的な手入れを実施したほか、庭園景観の構成要素である園内の解説版を更新するなど景観向上に取り組んだ。また、園内の山野草の保全・充実のため、裸地化した山野草が衰退したエリアの環境改善（日当たり調整・土壌改良）、種子栽培・葉挿しによる苗の栽培、環境にあった場所での移植・補植を行っている。さらに、「伝統技能見学会」は中止とし、パネル展示やTwitterを活用して技能職員による雪吊り・霜除けを紹介した。作業日には利用者が滞留しないよう、パネル展示への誘導案内も設置し分散利用を図った。加えて、複数のテレビ局やラジオに効果的な情報提供を行い、紅葉期の来園者数は前年度比106%となるなど集客につなげた。</p> <p>・小石川後楽園では、一時占用許可において、納入通知書兼領収書に誤った金額を記載した。その後、誤った領収書を回収し、正しい処理を行った。書類作成時の声出し確認、ダブルチェックを徹底するなど対策を行ったが、再発防止を徹底されたい。</p>	A

グループ名	神代植物公園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
76	神代植物公園	A	<p>・温室の熱供給システムが不具合を繰り返す原因について、独自に調査し問題点の解明を行った。園内のトイレに自動感知型水栓を導入し、使用頻度が高いトイレにオートソープディスペンサーを設置するなど感染防止対策を徹底した。非接触型サービスの充実(キャッシュレス決済サービス、自動感知型水栓等)は、コロナ禍への対応にとどまらず、基本的な利用者サービスの向上に資する取組であり、他の公園等においてもさらなる充実に努めることを期待する。また、神代植物公園で見いだされたツバキ「神代都鳥」が3月に日本ツバキ協会に新品種として登録され、「神代」の冠がついた固有品種の育成をPRした。さらに、神代植物公園及び深大寺周辺を個々に回遊する謎解きゲーム「フロッドと瓶の中のフシギな世界」を、企画会社、深大寺そば組合、深大寺の協力を得て実施し、延べ6,000人が参加した。参加者のペースでコロナ禍でも楽しめるサービスを提供し、地域の活性化にも寄与した。植物多様性センターについては、植物多様性に関する出張展示を全国12箇所を実現し、植物多様性保全の教育・普及を図るとともに、各施設との連携強化にもつなげた。また、絶滅危惧種で栽培技術が確立されていないミクラジマトウヒレン、シマキンレイカ、オニバス、ミズアオイを保護育成し、増殖に成功したほか、都の工事に伴い、希少種の一時預かり、現地復元等を実施した。</p> <p>・「第14回神代植物公園秋のバラ展」について、直前に中止が決定されたにも関わらず都へ報告がなく、都の事務に支障をきたした。また、管理体制の変更に関する報告が遅れるなど、人員配置及び連絡体制が不十分であった。適切な管理に努めるとともに、再発防止を徹底されたい。</p>	A

グループ名	夢の島公園・夢の島熱帯植物館
指定管理者名	アメニス夢の島グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
77	夢の島公園	A	<p>夢の島公園では、東京2020大会への貢献としてアーチェリー体験を行うとともに、樹木診断に基づく大径木管理や安全性に配慮したBBQ再開など、公園の管理運営を着実に実施した。また、東京2020大会に向けて東京都が実施した大規模整備では対応しきれなかった、大雨時の園路排水箇所や案内板改修等について、組織委員会などと工事調整を図って改修し、利便性向上を図った。さらに、会場整備工事が長期間に及び、工事施工場所や施工内容、駐車場の開閉が日々刻々と変化する中、組織委員会や東京都と密接に情報共有を図って臨機応変に対応し、来園者の安全を考慮した動線確保等に努めた。</p> <p>・夢の島熱帯植物館では、温室上部ガラスに接触していたヤシの伐採に際し、経緯や写真を掲示して来館者への事前周知をきめ細かに行うとともに、作業状況の動画での記録や、発生材を中庭に展示する等、来館者への作業内容アピールにも努めた。また、公式HP上に館内をVR撮影した「バーチャル植物館」を展開し、コロナ禍で来館が困難な利用者でも楽しめる、新たな施設利用方法を提供した。そのほか、「木と人の物語展」はアーティストを起用して、レベルの高い展示ができた。</p>	A
78	夢の島熱帯植物館	B		B



グループ名	潮風公園・台場公園
指定管理者名	東京臨海副都心グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
79	潮風公園	B	<p>・潮風公園では、東京2020大会工事による閉鎖期間を有効活用し、修景施設のカスケードの水中照明LED化工事や園内全域の給排水設備工事等を実施した。また、東京2020大会に関連して、公園側から首都高用地に大型バスが試走する際、組織委員会及び川崎国道事務所とも調整の上、ルートの確認及び安全確保を行った。</p> <p>・台場公園では、隣接するお台場海浜公園が東京2020大会開催延期に伴って工事工程を変更したことで、台場公園へアクセスできなくなり開閉園を繰り返したが、関係者と積極的に調整を行い、随時HPなどで適切な情報提供を心がけ、利用者の混乱防止に努めた。</p> <p>・潮風公園及び台場公園では、一部実態と異なる報告がなされた。実態に即した報告をするよう努められたい。</p>	B
80	台場公園	B	<p>・潮風公園では、一部事故報告の遅れや報告書提出漏れがあり、緊急時連絡体制の不徹底が見受けられた。再発防止に努められたい。</p>	B

グループ名	横網町公園
指定管理者名	公益財団法人東京都慰霊協会

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
81	横網町公園	A	<p>・和の空間づくりの取組を進めており、江戸風鈴の展示は今後の方向性の一つとして評価しうる。また、東京都が行った復興記念館外装改修工事において取替・修復を行った正面怪獣像について、文化財的な価値を見出し、美術品制作的作業工程の記録を詳細に残したことで、特別展開催に繋がった。特別展はメディアに取り上げられ、怪獣像を通して建物の魅力を広い層に伝えることができ、施設のことを知ってもらいきっかけが広がった。さらに、感染症対策の観点から集団での外出移動が難しい小学校への出張ガイドを実施し、震災・戦災の記憶の継承に努めた</p>	A

グループ名	東京臨海広域防災公園
指定管理者名	西武造園株式会社

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
82	東京臨海広域防災公園	B	<p>・コロナ禍における防災の普及啓発等の取組は評価できる一方、一般的な防災公園での対応にとどまっている印象があるため、国営公園と併せて発災時に当公園が果たす役割を踏まえ、必要な訓練等のあり方を検討し実施することを期待する。また、園地の利用状況が大きく変化して団体でのスポーツ利用が増加したため、適切に利用指導できるよう基準を明確化したことにより、前年度に比べて、ラグビー等の利用件数は増加したにも関わらず苦情の声は少なくなり、来園者が安心して利用できる環境を創出した。そのほか、コロナ禍でイベントは少なかったものの、ボランティアが活動できる場となるよう1年を通して植物の変化を楽しめる花壇づくりに着手、令和2年度はガーデニングの専門家に植栽デザインを依頼して園路を敷設し、令和3年度に予定しているガーデニング講座に繋げた。</p>	B

グループ名	都立動物園
指定管理者名	公益財団法人東京動物園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
83	恩賜上野動物園	A	<p>・グループ全体として、整理券予約システムの一部施設への導入は、コロナ禍への対応にとどまらず、基本的な利用者サービスの向上に資する取り組みであり、導入による課題等を整理し、さらなる利用者サービスの向上を期待する。</p> <p>・恩賜上野動物園では、開園以来初となるアジアゾウの繁殖に成功したほか、カジカガエルの繁殖により日本動物園水族館協会から初繁殖認定を受けた。また、3月にはジャイアントパンダの交尾を成功させた。さらに、ホームページ「東京ゾーネット」内に新たなコンテンツ「東京Zoovie Maps &amp; Tours」をオープンし、様々な動画配信によって自宅で動物園を疑似体験してもらう取組を実施するとともに、ジャイアントパンダ シャンシャンの誕生日にはTwitterでパンフレットの紹介や過去を振り返るツイートをを行うなど、積極的なPR活動に努めた。加えて、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として事前予約システムを導入して混雑緩和を図り、来園者が安心して過ごせる環境を提供したほか、EVバス運行開始にあたっては、運行ルールの見直しが求められる中でも円滑な運行に尽力した。</p>	A
84	多摩動物公園	B	<p>・多摩動物公園では、アカガシラカラスバトの自然繁殖に継続的に成功するとともに、キリン・チーター・オランウータン等、希少動物の繁殖に成功した。また、円山動物園とアジアゾウの教育研究活動拡充のための協定を締結し、保全・普及に関する連携を強化した。</p> <p>・葛西臨海水族園では、夜間開園が中止になった代わりに実施した「YouTube LIVE 夜の水族園」のライブ動画配信で通常実施では聞けない職員のガイドを付けるなど、コロナ禍においても工夫を凝らして園の魅力を広めた。また、「いきものミカタ宣言2021」として、職員が生き物や自然環境を守るためにできることを宣言した動画の公開や、特設展示「魚が食べたい!! きみはおさかなエージェント」での水産物の持続的利用の紹介など、教育普及プログラムも多数実施した。</p>	B
85	葛西臨海水族園	B	<p>・井の頭自然文化園では、SNSでの広報に力を入れ、新たなPR動画を作成したほか、Twitterでは、開園記念の園長挨拶の動画が13万回、リスの水浴び映像は380万回再生されるなど、魅力の発信に努めた。</p> <p>・多摩動物公園では、カンガルーの脱出など飼育管理体制に不十分な点があった。直ちに捕獲したもの、再発防止策の徹底を図られたい。</p> <p>・葛西臨海水族園では、ニジマスを一時的に別の水槽に収容した際に、酸欠のためへい死させる事故があった。事前確認を徹底し、再発防止に努められたい。</p>	B
86	井の頭自然文化園	B		B

グループ名	東京都霊園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
87	青山霊園	B	<p>・グループ全体として、きめ細かな課題への対応（芝生火災の防止、イノシシ対策、案内板の設置、手桶置場の設置、樹木管理等）が行われており、評価できる。</p> <p>・谷中霊園では、谷中霊園の風景を描いたオリジナルスタンプ10個と2か国語のスタンプ案内ガイドを作成・設置した。人通りの多い箇所（澁澤榮一墓所等）には、子どもでも見ることができ、高さのスタンプ案内板を設置し、谷中霊園の風景に興味を持っていただくとともに園内を散策してもらう仕組みを提供し、利用者の満足度向上に努めた。</p>	B
88	谷中霊園	B	<p>・雑司ヶ谷霊園では、未舗装園路に張り出したケヤキの支障根の処理を5年間で計画的に実施し、最終年度である今年度は80箇所、5年間で計300箇所対応した。安心して通行できる環境を整え、園路に関する苦情がなくなった。</p> <p>・染井霊園では、通行量の多い園路に、最寄り駅や管理所、新規貸付開始予定の「立体埋蔵施設」の方向を路面表示したほか、「南そめいよしの通り」「西そめいよしの通り」に、それぞれ管理所や駅の方向がわかる案内看板も設置するなど、墓所案内をわかりやすくし、利便性を向上させた。また、アジア系外国人の著名人墓所が複数あり、観光客だけでなく留学生や在留者が多く訪れることから、中国語の案内マップを作成し、園内掲示及び管理所での配布を実施した。来園者が迷わずに目的の墓所を見つけられるようになっただけでなく、染井霊園の特色や埋蔵されている著名人の魅力を発信することができ、窓口に感謝の声が多くあった。</p>	B
89	雑司ヶ谷霊園	B	<p>・八柱霊園では、感染症拡大防止のため合葬埋蔵施設献花式の式典を中止し、管理事務所長による代表献花とした。当日献花に来られた方には挨拶状を配布し、代表献花の様子はYouTubeで配信するなど、来園者の心情に寄り添った対応を行った。YouTubeでは園内散策と墓参の疑似体験ができる内容とし、墓参に来られない方にも霊園の風景を楽しんでいただけるよう努めた。また、これまで園外で焼却処分していた塔婆を資源として再利用し、雑草防止、土壌改良、景観保護を目的として被覆する取組を新たに始めた。職員の計画的な作業により、廃棄された1万本の塔婆をチップ化し、樹林地や花壇等に被覆するなど、ごみ減量に向けて取り組んだ。</p>	B
90	染井霊園	A	<p>・八王子霊園では、地形によって日当たりが悪く劣化した芝生を耐陰性の芝生に張り替える工事を行い、墓域景観の保全及び公平な墓参環境の提供に努めた。また、イノシシによる芝の掘上げ等に対し、新たに超音波式害獣忌避装置を導入し、被害の軽減に成功した。さらに、各墓域の全100か所の点火台に線香の持ち運び用トレーを200基設置するなど、火災を未然に防ぐ工夫を行った。従来から実施している園内放送や横断幕に加え、園内全100箇所の点火台に注意喚起の掲示を行ったほか、窓口での手続きの際や石材店にチラシを配布するなど、来園者の意識向上を図るための取組を実施し、令和2年度の芝生火災の発生は0件となった。</p>	A
91	八柱霊園	B	<p>・多磨霊園では、火災対策について石材店組合等と協働し、役割分担により線香点火コーナーの増設や線香を運ぶトレーの設置を行い、墓参者からも好評を得た。消防団とも火災防止の取組について相談を行い、春彼岸では園内巡回を実施した。また、令和5年の開園100周年に向けて、石材店組合の協力を得て園路の下草刈りや実生木の間引きを行い、景観の改善と自生植物の健全な生育環境の保全を図った。</p>	A
92	八王子霊園	A	<p>・八柱霊園では、緊急対応等経費による個人墓所に関する工事について、都への事前協議を怠った。再発防止を徹底されたい。</p>	B
93	多磨霊園	B		B
94	小平霊園	B		B

グループ名	瑞江葬儀所
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価（案）	
			評価内容	評価
95	瑞江葬儀所	S	<p>・唯一の都営火葬場として、新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方（年間計425体）を積極的に受け入れた。東京都と協議の上、新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方の火葬優先枠を設けつつ、状況に応じて一般の火葬も行うなど柔軟に対応し、利用者のニーズに的確に応えた。また、靴底用消毒マット、スタンド式検温器、スマホ画面消毒用シート、トイレ便座除菌クリーナー等の設置に加え、ロビーや控室、トイレ等の抗菌コート処理を行うとともに、衛生資材の確保や火葬業務マニュアル（新型コロナウイルス対応版）の改訂など、様々な取組により感染防止対策を強化・徹底した。随行される利用者の方への配慮も十分に行うことで、安心して利用できる環境を提供し、管理者、利用者ともに感染者を出さずに運営を続けた。新型コロナウイルス感染症クラスター発生を想定したBCP机上訓練を実施し、不測の事態においても業務の早期復旧が可能な体制を構築できるように準備している。さらに、東京都が実施する火葬炉改修工事のため、使用可能な火葬炉に限られるとともに、火葬炉前に仮囲いができたことで景観や動線に支障が出たが、このことについて事前に葬儀会社への情報共有を徹底し、予約時と火葬当日にも説明を十分に行ったことから苦情はなかった。そのほか、平成21年12月に認定を受けた「優良防火対象物」を、通算11年にわたり防火対策を維持継続してきた功績が江戸川消防署より認められ、「令和2年秋の火災予防運動」において最高の栄誉となる東京消防庁消防総監表彰を受けた。</p>	S